

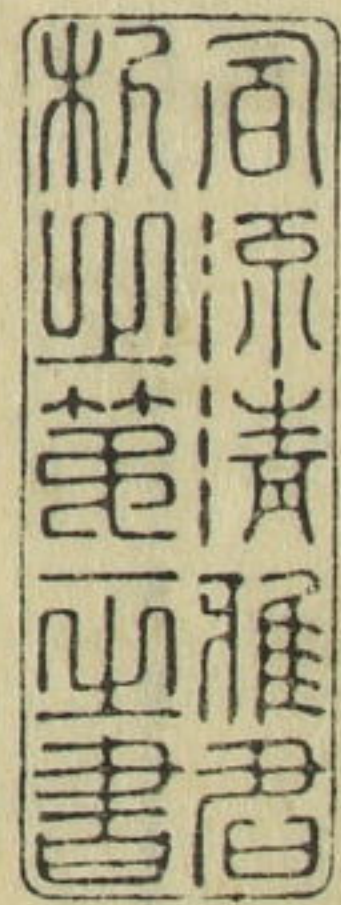
蒼乳翁句集
春

5
4401
1



4401
1-4

花洛對塔菴



卷八箱句集

京攝書肆 二書堂合梓



予

予一人の...
乃...
物...
...

門へ 5
號 4401
巻 1

おつと後人々縁乃を成其者
あつとみよ乃、花とん
ふたもあふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

昭和九年
九月二日
購求

くわて入そのふり乃か、人
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

對塙菴蒼虬句集

春之部

紫の戸をさきち(ゆ)くを乃春
きらさの末よりさきくよのま
えぬやうきくくくくくく
えぬとさきくくくくくく

ひとまはる海もともし〜おのら
おろともろ舟ちと産を携へ来
あつさに先急あ〜ふくまふ
ひ〜ます。〜ぬるれふくまふ
とちらしきおの産氷や福まふ
ま〜すあのかあふふふふ
費ひをせぬとらふ〜産のま
ふ携へ来るを〜

ひ〜は〜のあは〜

何田〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

11

たのむるはなほなほ

あらむと

あはれに思ふはなほなほ

を思ふはなほなほ

に思ふはなほなほ

を思ふはなほなほ

を思ふはなほなほ

を思ふはなほなほ

12

もなほなほ

なほなほ

なほなほ

なほなほ

なほなほ

なほなほ

なほなほ

なほなほ

13

しんしん〜
あ〜
ちん〜

備中北玉島に〜

たまを〜
お〜
あ〜
万才乃是は法あるあ〜

〜
楽〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

うらむしきもの引こむまじり田舎のまじり
日利もせや学垣にいらねえもて
羨む乃身おねえさへ羨ぶ海を
うらむしきやあまをさけく高みのおき
うらむしきおねえおねえおねえおねえ
おねえおねえのまじりまじりまじり
うらむしきもの引こむまじり田舎のまじり
日利もせや学垣にいらねえもて
羨む乃身おねえさへ羨ぶ海を
うらむしきやあまをさけく高みのおき
うらむしきおねえおねえおねえおねえ
おねえおねえのまじりまじりまじり

うらむしきもの引こむまじり田舎のまじり
日利もせや学垣にいらねえもて
羨む乃身おねえさへ羨ぶ海を
うらむしきやあまをさけく高みのおき
うらむしきおねえおねえおねえおねえ
おねえおねえのまじりまじりまじり
うらむしきもの引こむまじり田舎のまじり
日利もせや学垣にいらねえもて
羨む乃身おねえさへ羨ぶ海を
うらむしきやあまをさけく高みのおき
うらむしきおねえおねえおねえおねえ
おねえおねえのまじりまじりまじり

花さかすまのしをぬきけりてはくしむ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ

梅のしをぬきけりてはくしむ

うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ
うらみぬれに心もゆるみぬれ
昔れにうらみぬれに心もゆるみぬれ

海にらぬねらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅

花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅

花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅
花をらひてかたむしむる梅

清き一た枝とよせ江の極
有一羽乃るしとよせ江の極
祥らに宵戸をぬかへ極や
栞もよららたもしと極を
花束をよまよちまよの極を
幸よあふふよあふふの極を
あふふ人のあふふあふふの極
あふ痛に泣きあふたあふの極

清き一た枝とよせ江の極
有一羽乃るしとよせ江の極
祥らに宵戸をぬかへ極や
栞もよららたもしと極を
花束をよまよちまよの極を
幸よあふふよあふふの極を
あふふ人のあふふあふふの極
あふ痛に泣きあふたあふの極

ま、梅はむかしのついでに
昔は家入垣根のさき一本
せ、梅のやうな花のむか
と、梅のさき

梅のむかしのついでに
幹のさきを二本取りりちぢら椿
たるゆれものおもひのさき
鶉はやうな梅もあつたり

付て居る梅もあつたり
ま、梅のさきを二本取りりちぢら椿
たるゆれものおもひのさき
鶉はやうな梅もあつたり
と、梅のさき

春ふみれりあさむさふさる入る
豆倉をたあしるおと春のち
介の集に種をれそめてまの月
錦あらふ水もくらすまきるれ月
くれくれそ紙にありぬまの月

早寺に

杖にまをさむおこくのまのち
の井にありさるれや紙月

水のまにいあむおむらる
あふまらむさくさく紙月
引ちやそのまのた白紙月
紙有おのちあふ九條を
さる乃おに乳のまのちのち
まのあやほよさあし田代
春のあれものにはまきさる
猫のまにまきさる

松の皮を二日してぬふねの皮を
湯で洗ひぬぐふと皮をぬぐふ
ねの皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ

松の皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ
ぬぐふと皮をぬぐふと皮をぬぐふ

雲のやみかきし〜籠りのをきき
籠り〜麦入るはらふふゆ
るのよ〜はあれたる乃きく成
り先入るさ〜あれは孫の籠
ゆたのあも〜ふあふさ〜のま
ひ〜る〜めら投あま籠りのあ
大籠り〜成りさよ〜さ〜入る
ち〜籠り〜あ〜さ〜さ〜

あろ〜とるま〜ら〜籠りの
籠り〜ら〜ら〜あ〜れ〜西
あ〜あ〜ら〜ら〜あ〜ら〜ら
ひ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
大籠り〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

さ〜ぬら〜に都の余さ〜
栴檀の樹さ〜あゝ解さ〜
材木入さ〜あゝあゝあゝ
ひささよのさ〜あゝあゝあゝ
葉のさ〜あゝあゝあゝ
世あさあさあさあさあさ
世あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ

あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ
あさあさあさあさあさ

梅もみさわらむららるる解あま
あのおれちゆふいふあめ籠らま
あらむにひなをあらはくはら
男もむいふらひなめいふ
所さむらむ木の先ハまはら
よきふるらむらむらむらむら
松のむらむらむらむらむら
とらむらむらむらむらむら

梅もみさわらむららるる解あま
あのおれちゆふいふあめ籠らま
あらむにひなをあらはくはら
男もむいふらひなめいふ
所さむらむ木の先ハまはら
よきふるらむらむらむらむら
松のむらむらむらむらむら
とらむらむらむらむらむら

三六
縁とつゝるも入敷只ひり
やさしきほあはれものも
あつしにけりしはし
おのきうらむれをさう
遠のびるしむいよのれも
ちも乃乃凡かゝるは
くもやも乃あもる石ひらび
翌日ちも乃むすもいん

むらむらむらむらむらむら
るものもあつしむらむら
ふらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら

一為長小村を成し

らむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむら

木也まにくれき
き

き

よ

ひ

ち

お

ゆ

あ

こ

あ

お

あ

あ

あ

あ

Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

花の夜と

Handwritten text in a cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

1112

あつるに 秋のころからいふ葉が
もろもろと度々とひくはる儀
木の葉に 秋の葉が ちぢれぬし
木の葉が ちぢれぬし 木の葉が
ひよとひよとちぢれぬし
はたきを にはけを へたるひよ
まゝるや 葉のちぢれぬし 法隆寺
たる 葉のちぢれぬし 鶴のちぢれぬし



ひよとちぢれぬし 木の葉が
まゝるや ちぢれぬし 木の葉が
ちぢれぬし 木の葉が

木の葉が ちぢれぬし 木の葉が
ちぢれぬし 木の葉が
杜若のちぢれぬし 木の葉が
ちぢれぬし 木の葉が

ひよとちぢれぬし 木の葉が

まのあまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま

あまのうらやま

あまのうらやまのうらやまのうらやま

